

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年6月19日】第169号



雑草を学ぶ

6月12日(月), 1年生の稲花タイムとして, 東京農業大学 国際食農科学科 宮浦理恵教授が, 雑草について授業をしてくださいました。生憎の雨でしたが, 子どもたちは先生と6人の大学生とともに, 世田谷キャンパス国際センター脇の空地へ。ここには今, たくさんの雑草が育ち始めているのです。宮浦先生から色や形の違う雑草を5種類以上集めてくるようにと課題が出されると, 子どもたちは大学生とともに空地に飛び出していきました。青い花が美しいツユクサ, 花がカリフラワーみたいに見えると人気のアカザの仲間, 小さな実をつけはじめたアメリカヌホウズキ, と様々な雑草が生えています。子どもたちは, 靴下までびしょ濡れになりながらも, 集めた雑草を持って意気揚々と教室に戻ってきました。教室ではこれらの雑草を白紙にレイアウトし貼り付けました。ご家庭で押し葉にするために, 授業後持ち帰りしましたので, 保護者の方々にもご覧いただくことでしょう。

キャンパス内の雑草といっても, 棘のあるアザミの仲間やワルナスビなどもあるのでちょっと心配していたのですが, 宮浦先生と大学生の皆さんが前日までに除去してくださっていたとのこと, きめ細かなご配慮に感謝しながらの授業となりました。またこの様子は, 東京農業大学の公式twitter でも紹介していただきました。

給食試食会

6月13日(月), 1年生の保護者を対象に, 給食の試食会が行われました。60名以上の保護者にご参加いただき, キムチチャーハン, 春巻, トマトとしらすのかき玉汁, タピオカココナッツソイミルク そして牛乳の給食を召し上がっていただきました。また, 食事中には, 献立作成や調理を委嘱している共立メンテナンスの担当者による本校給食のコンセプトについての説明に続き, 給食調理の様子を映した動画も視聴しました。動画によって, 多くの担当者が安全な給食調理のために尽力している様子をご理解いただけたことでしょう。子どもたちの給食や下膳の様子をご覧いただいたあと, 栄養教諭から給食や子どもたちの様子についての説明, また校長からはタピオカを作るキャッサバの話などを含めた食育講話を行いました。楽しいひと時になったことを願っていますが, 保護者の皆様には, 配膳・下膳のボランティアを含め, スムースな運営にご協力を頂きましたことにも, 感謝申し上げます。

小田急線経堂駅で

6月8日(木)と15日(木), 2年1組と2組がそれぞれ, 小田急線経堂駅に見学に伺いました。農大稲花小のたくさんの子どもたちが利用する経堂駅です。昨年に引き続き, 駅で様々な方々が鉄道の安全な運航のために働いておられる様子を, 見せていただきました。

ホームでロマンスカーが通過する様子を見たり, 非常用ブザーについて学んだり, さらに, 普

段は目にすることのない駅の内部で駅全体をコントロールする様子、券売機、宿直室と、普通では入れない場所まで見せていただきました。子どもたちはわくわくしながらも、真剣に説明を聞いたり、質問をしたりしていました。

6月には本校で、世田谷警察署、東急バス、小田急電鉄と様々な「先生」方からマナーや交通安全について、そして社会を支える公共交通について学ぶことができました。公共交通に限らず、子どもたちもまた社会の一員であるという意識を、育てていきたいと願っています

記名は大切

子どもたち、とくに1年生と話すときにまず見るのは上履きです。入学したばかりの子どもたちの名前を覚えるには、話しかけるのが一番なのですが、それだけでは顔と名前が一致しません。まず素早く、上履きに書かれている名前を見て、覚えていきます。担任の先生方と違い、正門、玄関、廊下、グラウンドと、教室以外で子どもたちと接することの多い校長は、最初の一か月はとくに、上履きの名前が頼りでした。ゲストティーチャーや非常勤の先生方も、似たような経験をされているかと思います。

ところが、新入生全員が、すべての持ち物にしっかりと記名しているかというと、そうでもありません。記名していない持ち物を持っている子ども、上履きの名前が消えかかっている子どもも多いのです。新入生にとって、上履きの記名は「はじめまして」の名刺のようなものなのです。また、持ち物管理のためにも、すべての持ち物への記名は必要です。いつでも、名前がしっかりと見えるように、毎週末にはご家庭でもお子様と共に点検していただくようお願いします。

夢の教室

6月15日(木)、5年生を対象とした「夢の教室」が開催されました。これは、日本サッカー協会(JFA)の主催によるもので、元プロサッカー選手の増嶋竜也氏が、「夢先生」として来校されました。

Jリーグで活躍していた増嶋氏の指導のもと、体育館において、子どもたちが協力してゲームを行う時間からスタートしました。続けて、プロサッカー選手という夢をもったきっかけや、挫折・失敗、白髪になるほど苦しかった時期を乗り越えて夢をかなえるまでを子どもたちに話してくださいました。

夢の実現が一筋縄ではいかなかった中で、友だちに助けられながら、あきらめずに努力をしてきたその様子は、子どもたちだけでなく、教員が聞いても引き込まれるお話でした。そして最後には、子どもたちも自分自身の夢を語りました。増嶋様の熱気あふれるトーク、子どもたちの声もよくキャッチしてくださる気配り、素晴らしい「夢の教室」となりました。

増嶋様、そしてサポートしてくださった皆様にも、御礼申し上げます。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子